

神のディスタンス

ヘブル 10 : 19～23

〔導入〕

おはようございます。待降節、アドベントの第3主日を迎えました。いよいよ来週はこの年のクリスマス礼拝を迎えます。

そして今日は私たち神の家族に新しい仲間が加えられます。第2礼拝で洗礼式が、又第3礼拝では転入式が行われます。今日みなさんと一緒に神の家族の喜びを味わいクリスマスの喜びを共に祝っていきたいと思います。

クリスマスは神のひとりごイエス・キリストが私たちの住むこの世界に来てくださった事を覚え、祝う日であります。私たちの救い主は遠くはなれた神ではありません。私たちのすぐそばまで来てくださり、私たちと共にいてくださる神なのです。

今日私たちは救い主、誕生の意味をヘブル人への手紙から学びたいと思います。神の御子が来られた、その喜びのメッセージを共に受け取りたいと思います。

〔聖書朗読〕 ヘブル 10:19～23

- 10:19 こういうわけで、兄弟たち。私たちはイエスの血によって
大胆に聖所に入ることができます。
- 10:20 イエスはご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのために、
この新しい生ける道を開いてくださいました。
- 10:21 また私たちには、神の家を治める、
この偉大な祭司がおられるのですから、
- 10:22 心に血が振りかけられて、邪惡な良心をきよめられ、
からだをきよい水で洗われ、全き信仰をもって真心から
神に近づこうではありませんか。
- 10:23 約束してくださった方は真実な方ですから、私たちは動揺しないで、
しっかりと希望を告白し続けようではありませんか。

〔クリスチャン川柳コンテスト〕

みなさんはモーセ会の会報をご覧になったことがあるでしょうか？毎月、読み応えのある会報が作られているんですが、毎回、最後に川柳のコーナーが設けられています。クリスチャンが作る川柳はなかなか味わい深いものです。

モーセ会だけではなくありません。若い人たちも負けていないのです。実は昨年、東京基督教大学主催の全国中高生クリスチャン川柳コンテストが行われました。今年第2回のコンテストが行われ、先日その結果が発表されたのです。その中のひとつを紹介しましょう。



主の前じゃ
必要ないぜ
イエスだ
リッさん (著)

主の前じゃ 必要ないぜ ディスタンス
リッさん (高校3年生)

これを作った高校3年生リッさんの解説も合わせて紹介します。

「神様に距離を置く必要はない。自分の心の壁を取り払って、体当たりするぐらいの勢いで信仰生活を送りたい。そんな思いを込めました。」

キリスト教信仰は、神と人との間に与えられる個人的な関係の中に生まれます。そして、その関係において神様と自分との距離、霊的な距離が大切だと言われます。

神様に距離を置く必要はない。高校3年生のリッさんが、そう言いました。いいえ、聖書もまた私たちに距離を置く必要はないと教えます。心の壁を取り払い、神様に思い切ってぶつかるような信仰。そんな信仰について、今日はヘブル人への手紙から学びたいと思います。

〔血と聖所〕

10:19 こういうわけで、兄弟たち。私たちはイエスの血によって大胆に聖所に入ることができます。

旧約聖書において神様を礼拝するための方法について具体的なやり方が示されました。出エジプト記、レビ記を開きますと神を神として崇め、礼拝するための実に入念な指示が具体的に書かれてあることがすぐに分かります。

イスラエルの礼拝において必要なもの。それは血であり、また聖所と呼ばれる場所でありました。血というのは、動物の血のことです。神を礼拝するために動物の犠牲、いけにえは欠かせないものでした。

ご存じのように罪の赦しのために血を流すことが不可欠でありました。これは神を礼拝することが命に関わるものであることを示しています。罪の赦しは、そして神を礼拝することは命がかかっているということです。

その事は聖所という礼拝する場所にも現されています。イスラエル人はどこで礼拝をしても構わないとは言われません。礼拝するにふさわしい場所がある。聖所と呼ばれる場所がある。

聖所の聖という言葉。これは神様の聖さをあらわすものです。日本語できよいというとさんずいの方の清いという漢字がよく使われます。これは、きれいである、衛生的であるという意味を含むきよさです。

それに対して聖所の聖、聖書の聖の方は宗教的、霊的なきよさをあらわすものとして使われることが多いのです。つまり聖所というのは聖なる神がおられるところ、罪とは全くかけ離れた、聖い神がおられるところなのです。

旧約の時代、イスラエルの民は神殿や主の宮と呼ばれる所で礼拝を献げました。神殿の庭に祭壇が設けられる。そこでいけにえとなる家畜の犠牲がほふられる動物の血によって罪がきよめられる。その上で神に近づく。

けれどもイスラエル人は自分自身で神に近づくことは許されていませんでした。神様はあまりにも聖いお方なので、イスラエルの民の代わりに祭司だけが神に近づくことが許されていた。

神殿の中に聖所と呼ばれる部屋があり、祭司が民に代わってそこに入り、罪の赦しの祈りをささげる。これが、当時のイスラエルの礼拝風景でありました。

ところがイエス・キリストの登場によって、この礼拝の風景が一変するのです。イエスによって聖所に入ることができるのは誰でしょうか？

それは「私たち」と書かれている。代わりの誰かではない。祭司でもない。私たち自身が聖所に入ることができる。神に近づくことができるのです。

アダムとエバが罪ゆえにエデンの園を追放されました。罪をもったまま神と共にいることは許されない。罪ある人間は神に近づく事ができない。罪をもったまま神に近づく者は死ななければならないと聖書に書いてある。

だからこそ血が必要なのです。聖所があり、祭司がいる。その上で神に近づく礼拝をささげることができる。ですから血も聖所も礼拝が命に関わるものだということを意味している。

しかしヘブル人への手紙の記者は、私たちが神に近づくことができる。大胆に近づく事ができる。イエスによって、それができるというのです。それは一体どのようにして実現したのでしょうか？

[引き裂かれた垂れ幕]

10:20 イエスはご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのために、この新しい生ける道を開いてくださいました。

再び、神殿礼拝の光景を思い浮かべていただきたいのです。神殿の中の聖所と呼ばれる部屋がある。そこには、いけにえの血を流した祭司だけが入ることができる。

しかし、さらにその奥にもう一つの部屋があります。それは至聖所と呼ばれる場所でした。神殿の中で最も聖なる場所。神が住まわれるところ、神の臨在の象徴とも呼べる部屋がありました。それが至聖所です。

しかも至聖所に入れるのは、選ばれた大祭司一人だけ。それも年に一度だけ、入ることが許されていた場所であるのです。この至聖所と聖所の間に垂れ幕がかけられていました。

大祭司は一年に一度だけ、この垂れ幕を通して至聖所に入る事ができる。この垂れ幕を通ることなしに至聖所に入ることは許されません。

この至聖所の垂れ幕を通る以外に神に近づく道はない。聖なる神にお会いする道はないと言われていた。しかし、イエス・キリストは聖なる神に近づくための新しい道を作られた。誰もが通ることのできる道を作られた。

どのようにしてでしょうか？それは、イエスご自身が垂れ幕となる事によってなのです。

イエスが十字架の上で遂げられた最期を思い出していただきたい。十字架の上で息を引き取られた時、何が起きたのでしょうか？神殿の幕が、上から下まで真っ二つにさけたと聖書は言うのです。

この神殿の幕こそ垂れ幕です。至聖所に通じる道に置かれた垂れ幕なのです。十字架上で、イエスの命がささげられた瞬間、神殿の幕が引き裂かれました。

イエスは、ご自分の肉体という垂れ幕を引き裂かれた。十字架の上でご自身をささげられた。そのことによって、神に近づくための道が開かれたのです。

20 節をもう一度ご覧下さい。イエスはご自分の肉体という垂れ幕をさしだされました。目に見えない霊的な垂れ幕ではありません。血を流すこともない霊的な体ではありません。

イエスには、目に見える肉体がどうしても必要でした。そして、これこそが、イエス・キリストが、クリスマスにお生まれになった理由なのです。

血の通う肉体をもって生まれてきた。完全な人として生まれて来た。それこそが私たちの救い主の姿です。こういうわけで私たちはイエスの血によって大胆に聖所に入ることができるのです。

イエスの体がいけにえとなったことにより、至聖所の垂れ幕は引き裂かれた。神に近づく新しい道が開かれた。だからこそ、大胆に真心から神に近づこうではないかと聖書は勧めるのです。

〔人間に近づく神〕

10:21 また私たちには、神の家を治める、この偉大な祭司がおられるのですから、

10:22 心に血が振りかけられて、邪悪な良心をきよめられ、からだをきよい水で洗われ、全き信仰をもって真心から神に近づこうではありませんか。

神はあまりにも聖いお方です。それゆえ、罪ある人間がそのまま近づくことはできないとされてきた。距離をとらざるを得なかった。

神の近くにいることが幸せである、祝福である。誰もが知っていた。分かっていた。けれども、それはかなわなかった。できなかった。それほどまでに罪人にとって神は、あまりにも遠く存在となっていた。

ソーシャルディスタンスという言葉があります。コロナ禍ですっかり定着した言葉のひとつ。日本語にすると社会的距離と言われる。ウイルスの感染拡大を恐れ、人々が互いに距離をとらざるをえなくなった。その結果、生まれたのがこのソーシャルディスタンスであります。

でも、これはただ単に、物理的な距離を取るだけでは済まされません。人々の交流の機会を奪い、人間の生活様式までも変えてしまった。まさにそのような距離、そのようなディスタンスであったのです。

遠く離れている。距離を取っている。ディスタンスがある。人間が生きていく上で、これほどまでに大きな問題となり、壁となってしまう。そのことを一体誰が想像できたのでしょうか？

同時に、聖書は人と神との間にも大きな距離があると言うのです。人間と神様との間に距離がある。隔てられている。乗り越えることのできない壁、飛び越えることのできない大きな溝がある。

そこにディスタンスがある。人間と神とを隔てるディスタンス。近づくことを許さない距離があったと言うのです。だからこそクリスマスが与えられました。だからこそイエス・キリストが生まれてくださいました。

神に近づくことのできない人間。だからこそ、神のほうから私たちに近づいてくださった。生まれてくださった。それがクリスマス。

神と人間の間には、計り知れない距離があった。超えられない溝があった。しかしそれを超えられないとは考えず、神が人となるのはできないとは考えず常識を乗り越え、理屈を超えて人として生まれた神。それがイエス・キリストなのです。

遠く離れていた神が目の前に来てくださった。小さなみどりごとになって、目の前に生まれてくださった。2000年前、この大きな喜びの知らせは、静かに人々に告げられたのです。

この良き知らせを聞いて人々は、どう反応したのか？ヘロデ王は、動揺した。エルサレムの人々は恐れた。しかし、東の博士たちは、御子イエスに会いに行ったのです。羊飼いは御使いの告げたことを確かめに行ったのです。

ヘルブ人への手紙の著者も同じように言うのです。「私たちもまた全き信仰をもって真心から神に近づこうではありませんか」罪ある私達が、汚れた私達が神に近づくことができるのか？

できるのです。なぜならばイエス・キリストが私たちの大祭司となられたから私たちをとりなし、導く偉大な祭司となられたから。だから、出来るのです。

みなさん、もう一度 22 節をご覧ください。ここに受動態と能動態、2 つの動詞が使われています。血が振りかけられ、良心をきよめられ、きよい水であらわれたのは誰ですか？私たちです。

そして、これらはすべて偉大な祭司であるイエス・キリストが私たちのためになして下さったことです。そして残るは私たちがすべきことです。真心から神に近づくことです。

イエスという垂れ幕を通して、主が造られた新しい道を通して、私たちは大胆に神に近づくことができるのです。

〔希望を告白する〕

10:23 約束して下さった方は真実な方ですから、私たちは動揺しないで、しっかりと希望を告白し続けようではありませんか。

コロナ禍が生み出したものは人々の動揺でした。また人と人との距離でした。新型コロナウイルス感染症に対する正解は、なかなか見つける事ができません

何が正しいのか、何が間違っているのか。人々の意見は分かれました。また人々の心も分かれました。分断や分裂が、あちこちに見られました。人と人の間に距離が出来てしまった。

それは、ソーシャルディスタンスだけではありません。物理的な距離だけではありません。心と心の間の距離、目に見えない心のディスタンスが存在する。孤独や孤立があちこちに見られる。人と人とのつながりが壊れていく。寂しい時代です。また厳しい時代です。

でも、だからこそ、私たちは主イエスキリストにある希望を告白し続けたいのです。人となられた神、すべての人を照らすまことの光として世に来られた神イエス・キリストのゆえに希望を告白していきたいのです。

みなさんは神様との間にディスタンス、距離を感じていますか？様々な理由によって私たちはいつの間にか神様から離れてしまったように感じるものです。だとすれば私たちに必要なことは神に近づくことです。

「主の前じゃ必要ないぜ ディスタンス」高校生のリツさんは、そう歌いましたリツさんの言葉をもう一度思い出しましょう「神様に距離を置く必要はない。自分の心の壁を取り払って体当たりするぐらいの勢いで信仰生活を送りたい」

クリスマスです。神の御子は救い主としてベツレヘムに誕生されました。私たちもまた信仰をもって、希望をもって神に近づきたいと思います。その時、インマヌエルの神の約束が実現するのです。

●祈り マタイ 1:23

「見よ、処女が身ごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」それは、訳すと「神が私たちとともにおられる」という意味である。

神様、今年もまた私たちはアドベントの季節を過ぎてまいりました。
そして、いよいよ来週はクリスマスを迎えようとしています。

この年も私たちはいろんな所に距離が出来てしまっているのを目にしました。
国と国の間に埋められない溝が出来ている。人と人との間に超えられない違いが存在する。分断や分裂がますます距離を大きくさせていく。

しかし、同時に人間は神様との間に距離を作ってしまいました。罪によって、
神から離れ、不信仰によってますます神から遠ざかってしまいました。しかし
聖書はなおも一貫して私たちに神に近づきなさいと勧めてくれています。

私たちはイエスの血によって大胆に聖所に入ることができるのです。道であり
真理でありいのちであるキリストを通して神に近づくことができるのです。

どうかこの年もクリスマスに救い主をお迎えすることができますように。また
私たちも信仰をもって神に近づき、神を礼拝する者となる事ができますように

インマヌエルの神、人となられた神、私たちの主、クリスマスの主、
イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします

アーメン

●祝祷

インマヌエルの主イエス・キリストの恵みと
父なる神に近づく私たちを包み込む神の愛と
希望の告白をさせてくださる聖霊なる神の導きが
救い主の到来を待ち望む一人一人の上に
豊かに限りなくありますように。アーメン